

人気の高まる OSS も 「保守・サポート」に大きな課題 OpenStack のトラブルは誰が解決してくれる？

企業システムの構築において、「オープンソース・ソフトウェア（OSS）」の注目度が急速に上がっている。Linux に代表されるように、OS として活用される例は多かったが、この活用領域がクラウド基盤やアプリケーションのレイヤーまで広まっている。

そこで今回は、企業における OSS の活用状況について、アンケート調査「OpenStack および OSS に関するアンケート※」を実施した。

※ 2014 年 9・10 月、マイナビニュース調べ

OSS を重要なシステムにと検討するユーザーが増加

この結果によると、“すでに利用している”あるいは“興味がある”OSS の分野として「OS」が最も大きい回答数を得たほか、「クラウド基盤」「ネットワーク」「サーバ仮想化」などを回答する声も多かった。いずれも最新の企業システムにおい

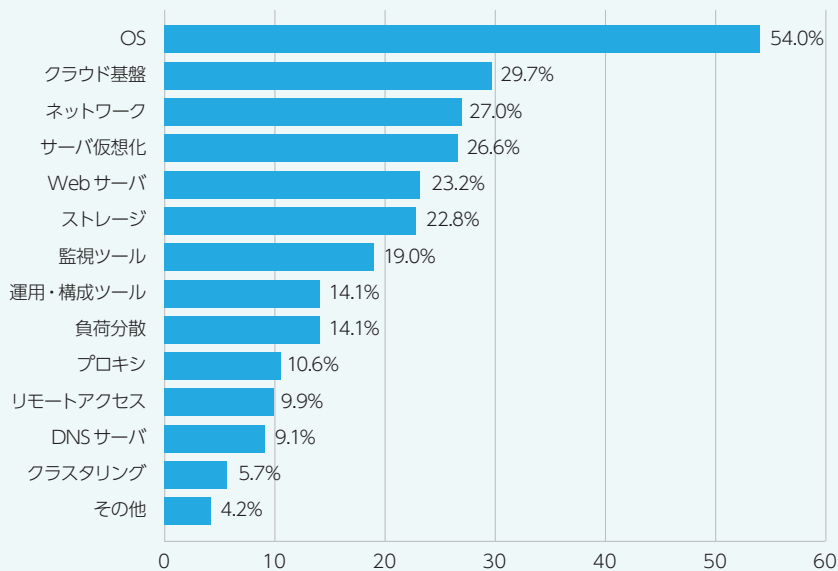
て注目のキーワードであり、重要な領域に OSS を活用しようとするユーザーが多いことが伺える。[図 1](#)

実際、こうした基盤系 OSS は今後も重要視されることが予測される。“基盤系 OSS の利用状況”について尋ねると、「利用を検討している」「利用に向けて検証している」「利用している」とした回答者は、32.3%に上った。「興味がある」とした回答を含めれば、半数を上回る数字だ。[図 2](#)



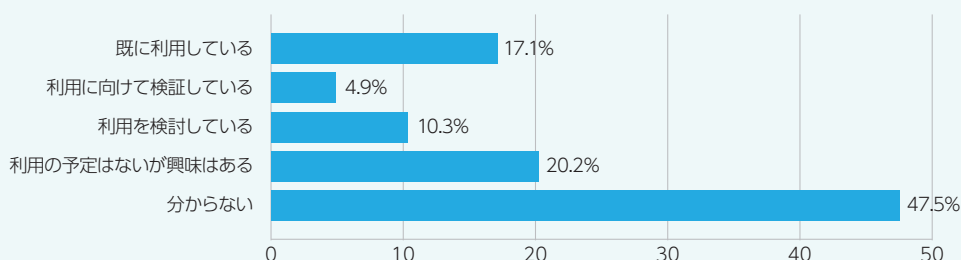
利用または興味のある OSS の分野を教えてください（複数回答可／有効回答数：263 人）

図 1



基盤系 OSS の利用状況を教えてください（有効回答数：263 人）

図 2



OSS が注目される 4 つのポイント

なぜ OSS が注目されているのだろうか。今回の調査を基に、ヴィーエー・リナックス・システムズ・ジャパンの代表取締役社長を務める下平慶龍氏に、OSS の魅力について分析していただいた。同社は、OSS を導入する際のコンサルティングや運用支援、受託開発などを提供するサービスベンダーとして、高度な知見と技術力で定評がある。

下平氏によれば、企業が OSS を選ぶ理由として、

- ①コストが安価
- ②多数の最新技術を利用できる
- ③ベンダーロックインがない
- ④迅速な対応が期待できるという 4 つのポイントがあるという。

②は、OSS の最大の魅力と言えるだろう。最新技術を活用したさまざまなソフトウェアが提供されており、自由に選択して活用することができる。先進的なシステムを効率よく開発するためには、こうした先人の偉業を積極的に利用することが望ましい。

③については、企業ユーザーが注意すべき点の 1 つである。1 つのベンダー製品でシステムを統一することは、もちろん良

い面もある。しかし、必要な機能を得られなかったり、コスト面でデメリットが生じたりしたとき、他社のシステムへ乗り換えられるかどうかは、大きなポイントだ。

④も OSS の大きなメリットである。ソースコードが開示されているため、問題があったときに自ら追求できる。プロプライエタリ・ソフトウェアは“ブラックボックス”と揶揄され、特に海外ベンダー製品の場合には、問い合わせから解決までに長時間かかるケースもある。もちろん高度な技術力が必要となるため、このメリットについては十分に考慮しなければならない。

さて、多くのユーザーが期待している①であるが、最も注意しなければならない点でもある。確かに、OSS の多くは無償で提供されている。しかし、「OSS はタダ」と考えるのは大きな間違いだ。

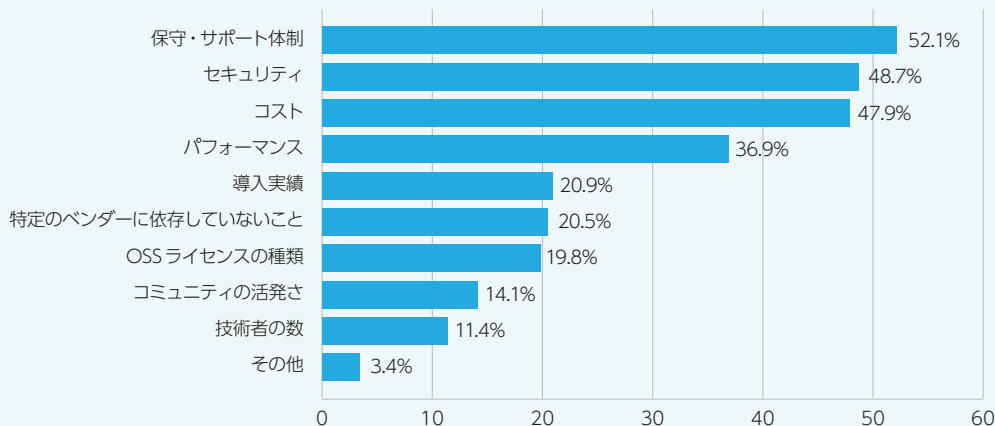
「日々の導入から運用・管理のほか、トラブル対応やバージョンアップまで自らこなすには、多大な労力とコストがかかります。その点で、OSS もプロプライエタリ・ソフトウェアも変わりません。他のメリットにも目を向け、トータルコストの抑制をメリットとして考えるべきです」（下平氏）

今回のアンケート調査においても、OSS を利用する際に重視する項目を尋ねたところ、「コスト」(47.9%)以上に「セキュリティ」(48.7%)や「保守・サポート体制」(52.1%)を重視していることがわかった。図 3



OSS を利用・検証する際に重視する項目を教えてください（複数回答可／有効回答数：263 人）

図 3



世界中で人気の高い OpenStack コミュニティの活発さは OSS の命

本稿で注目したいのは、図 1 で第 2 位に上がっている「クラウド基盤」である。前述したように OS の分野ではすでに活用が広がっているが、クラウドはまだこれからの仕組みだ。クラウド基盤の中でも、「OpenStack」と「CloudStack」が群を抜いて注目されている。図 4

OpenStack の注目ポイントとしては、「コミュニティの活発さ」(45.1%)を挙げる回答者が多かった。また、「エコシステム」(41%)を挙げる回答者も多い。図 5

「OpenStack の開発ペースはとても速く、半年ごとにバージョンアップされています。必要な機能を独自に開発すると、

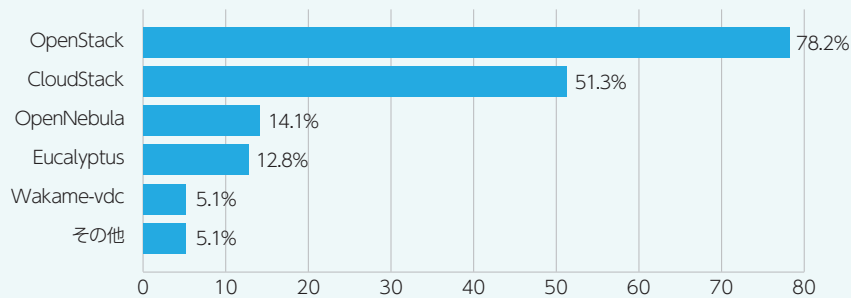
更新後に使えなくなることも多いのです。そこで、開発したコードをコミュニティへ還元しておく、利用者によってメンテナンスがされるようになります。多数の開発者が参画し、インストールツールや運用管理ツール、PaaS/SaaS の管理ツールなど、さまざまな付加機能が提供されているのも面白いところです」（下平氏）

企業ユーザーにとっては、「導入実績」も重要なポイントだ。OpenStack は、大手ベンダーやサービスプロバイダーが商用クラウドサービスの基盤として活用する例が増えている。人気の高い OSS は、それだけコミュニティも活発になり、メリットを得やすくなる。選定ポイントの 1 つとして、意識するの



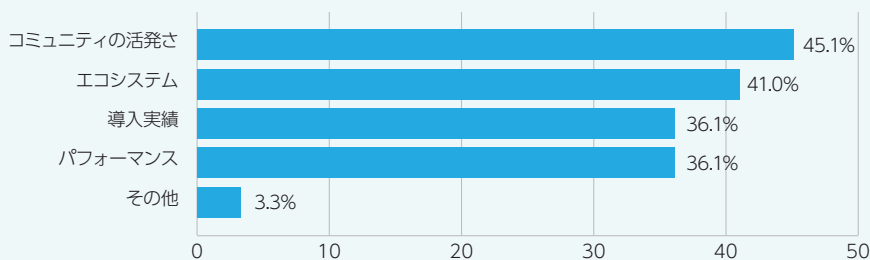
「クラウド基盤」と回答された方に質問です。
導入・検証・検討・興味がある OSS を教えてください (複数回答可／有効回答数：78 人)

図 4



OpenStack に注目する理由を教えてください。 (複数回答可／有効回答数：122 人)

図 5



Sler やプロバイダー エンドユーザーを支える VA Linux Systems

エンドユーザーが OpenStack を活用するにあたって、最も重要なポイントは「信頼性」である。クラウドサービスは、たとえアプリケーションに障害が発生してもサービスを続行できるという“可用性”が魅力の 1 つだ。その可用性を支えるクラウド基盤を、ダウンさせるわけにはいかない。

これを請け負うのは、システム構築・運用を担当するシステムインテグレーターやサービスプロバイダーである。しかし、一般的な事業者のすべてが、多種多様な OSS について細かなトラブル対応や追加開発を行えるわけではない。これは、自社でシステム開発を行っているエンタープライズユーザーにおいても同様だ。

そこで、縁の下の力持ちとして各種サービスを提供するのが、ヴィーイー・リナックス・システムズである。

同社が提供するサービスの中で最も人気が高いのは、障害解析・サポートサービス「VA Quest」だ。営業企画本部 営業部 部長の瀧本辰也氏は、同社と VA Quest の特徴を次のように説明する。

「当社の最大のポイントは、OSS に対する高度な知識と技術力を備えているところです。例えば OpenStack に何らかの問題が発生すれば、ソースコードから解析して迅速に原因を特定・修正することができます。私たちにお任せいただければ、場合によっては開発ベンダーの回答よりも迅速に対応することも可能です」(滝本氏)

同社は、ユーザーのニーズに合わせて機能を開発するサービスも提供しているが、下平氏の談と同様、瀧本氏も開発した資

源や経験をコミュニティに還元してほしいとアドバイスする。その機能を活用するユーザーが増えれば増えるほど、大きなメリットが得られるためだ。

「OpenStack をはじめ、ミッションクリティカルなシステムに課題を抱えるのは当然です。しかし、適切な運用とサポートさえあれば、OSS のメリットを最大限に享受できます。当社のサービスを活用して、エンドユーザーへ安心した OpenStack 環境を提供していただきたいですね」(下平氏)



ヴィーイー・リナックス・システムズ・ジャパン株式会社
代表取締役社長
下平慶龍 氏



ヴィーイー・リナックス・システムズ・ジャパン株式会社
営業企画本部 営業部 部長
瀧本辰也 氏



お問い合わせ

ヴィーエー・リナックス・システムズ・ジャパン株式会社

〒135-0061 東京都江東区豊洲三丁目2番20号豊洲フロント 9F

TEL : 03-5859-4600 (代表) FAX : 03-5859-3044

※受付時間 : 9:00 ~ 18:00 (土、日、祝日、弊社指定の休日を除く)

Mail : sales@valinux.co.jp URL : <http://www.valinux.co.jp/>